

計画処理量及び施設規模について

新施設の施設規模を 120t/日とする。

1. 基本構想における計画処理量及び施設規模

基本構想における計画処理量及び施設規模の算定方法は以下のとおりである。

- ・平成 29 年度の一人一日当たり可燃ごみ処理量である 987g/人・日を用いる。
- ・人口推計は人口ビジョンにおける歯止めをかけた推計値を用いる。
- ・し尿汚泥の処理量は含まない。
- ・あらかわ CC における処理量は現在の契約量である 62,905t/年とする。
- ・災害廃棄物分として施設規模の 10%を考慮する。

以上の条件から、新施設における焼却処理量を 34,795t/年と算定し、施設規模は 140～150t/日と想定した。

2. ごみ減量大作戦について（ごみ減量大作戦のパンフレット）

福島市では、平成 26、27 年度に 10 万人以上の都市において一人一日あたりのごみ排出量が最も多い状況にあり、平成 29 年度においては 1,239g/人・日であった。このことから、令和元年度より「ごみ減量大作戦」を行い、令和 3 年度までに一人一日あたりのごみ排出量を 890g/人・日以下とすることを目標に各種施策を開始している。

3. 新施設整備における計画処理量及び施設規模の算定

市全体の焼却処理量をあらかわ CC と合わせて安定的に処理するため、以下の方針の基、計画処理量及び施設規模を算定した。

- ・ごみ減量大作戦の目標達成を想定しつつ、10%の安全率を見込んだ 1 人 1 日あたりのごみ焼却処理量を設定する。890 g /人・日のうち 763 g /人・日が焼却処理量。
- ・人口推計については人口ビジョンにおける歯止めをかけた推計値を用いる。
- ・下水道合流改善後に衛生処理場で発生する「し尿汚泥」は、新あぶくまクリーンセンターで焼却処理する。
- ・あらかわ CC、新施設の両施設で災害廃棄物処理が可能なように余力を 10%見込む。

以上の条件から、新施設における焼却処理量を 29,272t/年と算定し、施設規模は 120t/日と想定した。

	① ごみ焼却 処理量 (1人1日)	② 人口	③ ごみ焼却 処理量	④ し尿汚泥 焼却 処理量	⑤ 市全体 焼却 処理量	⑥ あらかわ CC焼却 処理量	⑦ 新あぶくま CC焼却 処理量	⑧ 新あぶくま CC必要 施設規模	⑨ 災害 廃棄物 考慮後	⑩ 新あぶくま CC想定 施設規模
単 位	g/人・日	人	t/年	t/年	t/年	t/年	t/年	t/日	t/日	t/日
基本 構想	987	270,926	97,700	0	97,700	62,905	34,795	129.5	142.4	140～ 150
案	839	270,926	82,967	2,920	85,887	56,615	29,272	108.9	119.8	120
備考	763×1.1 =839			8t/日	③+④	10%の 余力確保	⑤－⑥		⑧×1.1	

4. 現行施設規模との比較

現行の施設規模はあらかわ CC、あぶくま CC の2施設合わせて 460t/日となっているが、新施設整備時には 340t/日となる。

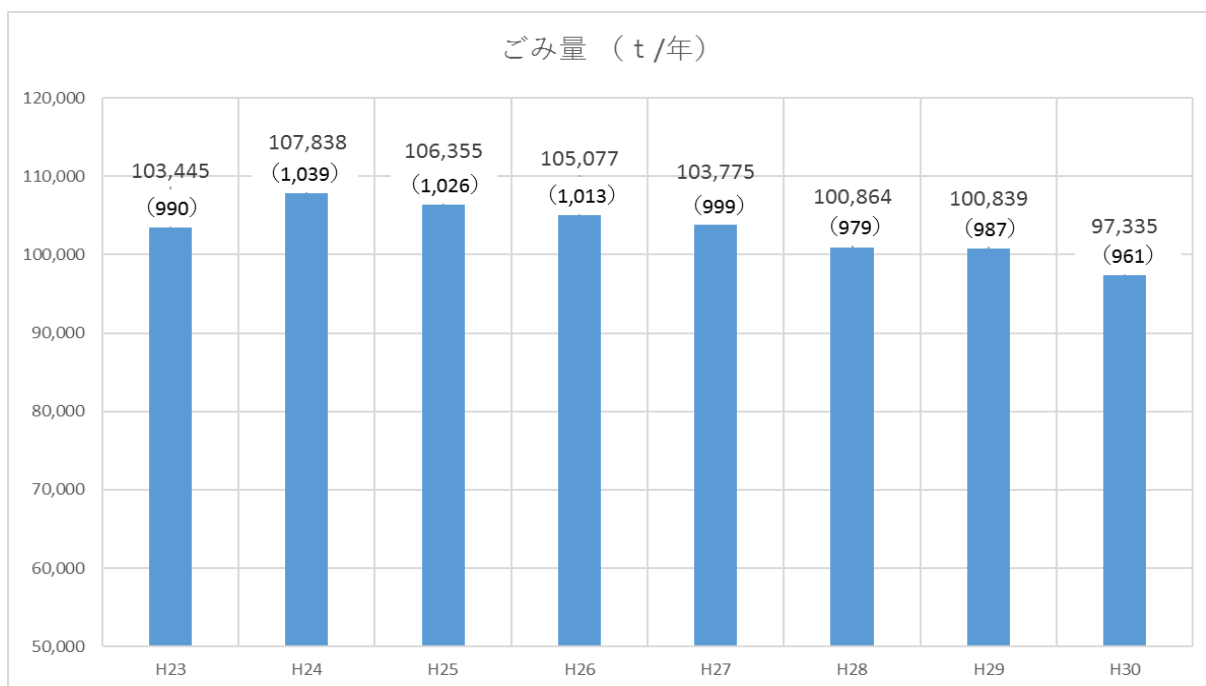
(現行)

あぶくまクリーンセンター	240 t/日
あらかわクリーンセンター	220 t/日
合計	460 t/日

(令和9年度以降)

新あぶくまクリーンセンター	120 t/日
あらかわクリーンセンター	220 t/日
合計	340 t/日

5. 参考 (過去の焼却処理量及び人口の推移)



※ () 内の数字は1人1日当たりのごみ焼却処理量

